



BY KATHY LIEN

今日のFXマーケット 02.01.12  
(2012年2月2日発行)

今日ユーロが上昇した5つの理由:

1. ギリシャ債務交渉に妥結の兆し - IIF が近日中の合意を示唆
2. ポルトガル 10年物国債イールドが 14%近くに低下; イタリアとスペインでも利回りが低下
3. 中国 1月の製造業指数が改善した
4. ドイツで製造業指数が上方修正された
5. 米国経済指標の不調でドル売りが強まった

EUR/USD はここ 5 日間低迷を続け、投資家は上昇力の喪失が一時的に終わるか長期に及ぶか、迷い始めていた。今日の相場展開から見る限り、ユーロには依然として買い需要が根強く、EUR/USD が再び 1.32 を超える可能性は高い。上記のとおり、上昇には多くの根拠もある。当社は火曜日の時点で、通貨の大幅な下落を回避するには好材料が必要であると述べたが、その後の 24 時間で出現した上記の材料こそ、まさしく「好材料」である。グローバルな需要後退懸念にも拘らず、中国の製造業は 1 月に拡大のペースを加速した。中国で最近発表された指標は、同国経済のハードランディング懸念を払拭する内容で、最悪のシナリオでも、今年景気は緩やかに減速する。ユーロ圏では、ドイツの製造業 PMI が上方修正され、同国製造業の好調さを示した。ECB の内部を含む多くのアナリストが、今年ユーロ圏のリセッション入りを予測しているが、最近発表された指標を見る限り、ユーロ圏 GDP の 48% を占めるドイツとフランスについて、リセッションの兆候は一切見られない。今後両国の少なくとも何れか一方で、継続的に弱い経済指標が出ない限り、ユーロ圏リセッション入りの懸念が市場の焦点となることはないだろう。同時に過大な債務を抱えるメンバー国の国債利回りも、ユーロの価値を因る上で重要な指標となっている。過去数カ月間、ギリシャ、ポルトガル、アイルランド、スペイン、イタリアの借入コストの動向が、EUR/USD の価値を決定したと言っても過言ではない。たとえば今日欧州の信用状況は改善し、これらの国の 10 年物国債利回りは大幅に低下した。特にポルトガルでは、10 年物イールドが 79 ポイント下落して 14.15% となった。依然として高水準には違いないが、投資家は利回りが正しい方向 (縮小) に向かったことを歓迎する。ギリシャ国債の民間保有者を代表する国際金融協会 (IIF) によれば、「数日以内に」合意がなされる見込みである。もちろん IIF が EU サミット前の合意到達を予測し、それが実現しなかったことは記憶に新しい。しかし彼らがギリシャ債務交渉の鍵を握るといふ事実が変わりはなく、投資家にとって IIF の言葉は重要である。実際合意の時は迫りつつあり、正式発表は時間の問題であろう。最後に、弱い米国経済指標の発表も、今日のドル安の原因となった。1 月の製造業指数は予測を下回り、ADP 雇用統計は小幅な雇用の伸びを伝えた。ADP 社の発表によれば、1 月に米国企業が追加雇用した従業員数は、12 月の 292 千人から 170 千人へと減少した。労働省は金曜日に雇用統計を発表するが、ADP の数値は雇用の伸びの減速を示唆する。ADP が非農業部門就業者数 (NFP) を表す最善の指標とは言えないが、同社が発表した労働市場の低迷自体は、1 月の NFP に関する市場の事前予測と一致するものだ。明日は Challenger Grey & Christmas 社が企業人員削減数を、また労働省は週間新規失業保険申請件数を発表する。今後 48 時間は米国労働市場の現状が市場の注目を集めるだろう。注目の NFP は +100 千人と予測される。もし 100 千人を上回れば、FRB は様子見の姿勢を堅持し、より多くの経済指標を見極めたうえで、QE3 の発動を決定することになる。反対に NFP が 100 千人を下回れば、3 月の量的緩和発動に向け、圧力は弥が上にも高まるだろう。

ただし今日のニュースのすべてが、ユーロにとって好材料であった訳ではない。ベルギーは昨年度リセッション入りした。同国 GDP は、第 3 四半期の -0.1% に続き、第 4 四半期にも 0.2% 縮小した。ギリシャとポルトガルは既にリセッション入りしているが、救済資金を要請していないメンバー国のリセッション入りは、ベルギーが初めてである。来週 ECB は政策委員会を開くが、利下げまたは何らかの緩和措置を求める、弱くとも確かな根拠がここに存在する。

外国為替保証金取引や、CFD、デリバティブその他のレバレッジ取引には高いレベルのリスクが潜在しており、預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、全てのお客様に適合している投資商品とは言えません。本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

弊社及び著者は投資サービス、法律サービス、会計・税制サービスあるいはその他のプロフェッショナル・サービスは提供しておらず、そのような必要が生じた際は適切なプロフェッショナルからサービスの提供を受けてください。同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録 (関東財務局長 (金商) 第 268 号) および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。 [www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp) © 2012 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複製・複製・転載を禁ず。GD08J.006.011212